

大学院物流情報報学研究科修士課程履修モデル

企業において、従来の物流の領域を越え、生産をうまくコントロールし、需要に対して、適切な商品を、適切なタイミングで、適切な量を、適切な状態で、供給する考え方、いわゆるロジスティクスが極めて重要な課題となっている。そして、部分最適ではなく、全体最適として、効率的でかつ効果的なロジスティクスシステムの構築が必要となっている。

本研究科は、このようなロジスティクスを柱として、関連する分野の専門的知識を有する高度職業人、並びに創造性豊かな研究者の養成を目指しており、物流履修モデルと情報履修モデルを設けている。

■物流履修モデル

物流、ロジスティクスの高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルである。企業のロジスティクスシステムに関連する科目である、「ロジスティクス論特論」、「ロジスティクスビジネス論特論」、「ロジスティクス管理論特論」「ロジスティクス工学特論」「国際経営論特論」「交通論特論」を中心に構成される。また、近年は、環境問題への配慮も重要性を増すなど、社会的な問題への対応の視点から、「環境物流論特論」も重要となっている。一方、ロジスティクスは極めて実践的な学問であり、企業の実際の動向の分析も重要である。企業のロジスティクス担当者を招いての講義、企業訪問による実践系の科目として、「ロジスティクス実践特論」がある。

以上の科目を中心に履修することが望ましい。また、ロジスティクスは情報システムと、極めて密接な関係にあることから、下記の情報履修モデルの特論を1科目以上履修することが必要である。

■情報履修モデル

ロジスティクスにおいて、情報システムをいかに応用するかという高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルである。情報及び情報通信システムに関連する「ソフトウェアシステム論特論」、「通信・ネットワーク論特論」、「ヒューマン・インターフェース論特論」を中心に構成される。また、ロジスティクスに関しては、定量的な解析が欠かせず、「ロジスティクスデータ解析論特論」がある。さらに、ロジスティクスの実際の現場を定量的に分析し、改善に結び付けていく「ロジスティクス分析・改善特論」がある。

以上の科目を中心に履修することが望ましい。

	1年次		2年次	
	授 業 科 目 名	単位数	授 業 科 目 名	単位数
物流履修モデル	下記関連の演習	4	下記関連の演習（修士論文）	4
	ロジスティクス論特論	4		
	ロジスティクスビジネス論特論	4		
	ロジスティクス工学特論	4		
	環境物流論特論	4		
	ロジスティクス管理論特論	4		
	ロジスティクス実践特論	4		
	国際経営論特論	4		
	交通論特論	4		
	特論については1年次にできるだけ履修することが望ましい。また、下記の情報履修モデルの特論を1科目以上履修すること。			
情報履修モデル	下記関連の演習	4	下記関連の演習（修士論文）	4
	ソフトウェアシステム論特論	4		
	通信・ネットワーク論特論	4		
	ロジスティクスデータ解析論特論	4		
	ロジスティクス分析・改善特論	4		
	ヒューマン・インターフェース論特論	4		
特論については1年次にできるだけ履修することが望ましい				